

# 2023(令和5)年度 部局マニフェスト ～私たちの組織使命と目標～



部局名	市民病院
役職	副院長
氏名	松田克彦
連絡先	0595-24-1111

業績目標の達成状況	
5. 先進的な取り組みを行い、成果があった	
4. 達成水準を上回る成果があった	
3. 業績目標を達成した	
2. 取り組んだが、業績目標を達成しなかった	
1. 業績目標に取り組まなかった	

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段
◎部局目標1 市民が安心できる医療の持続的な提供	関連の施策・基本事業No. 1-2 ④ 経営の安定	<p>〈現在の状態〉 2018(平成30)年度以降は黒字経営を続けているが、光熱費等の値上りに加え、新型コロナウイルス感染症の5類移行後は国・県補助金の減少により収入が減少するため収支が悪化する。</p> <p>↓</p> <p>〈達成目標〉 基準外繰入金に頼らず収支黒字を維持する。 10億円以上のキャッシュフローを維持する。</p> <p>※目標が達成した状態 医療提供体制の向上に必要な医療機器の更新や施設・設備の改修、職員の各種研修への参加等を積極的に行う財政的な余裕が生まれ、医療の質が向上している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間の経営に関する危機意識の共有</li> <li>・新たな施設基準の届け出とDPC機能評価係数の引き上げによる収入増</li> <li>・開業医等からの紹介患者数の増</li> <li>・経費の見直し、削減</li> </ul>
◎部局目標2 市民が安心できる医療の持続的な提供	関連の施策・基本事業No. 1-2 ④ 通常医療と新型コロナウイルス感染症医療の両立	<p>〈現在の状態〉 行動制限が緩和され、5月8日からは「第5類」へ引き下げられる。そのため、医療機関では従来以上に感染対策に注力する必要がある。</p> <p>↓</p> <p>〈達成目標〉 院内感染を防ぎ、クラスターの発生を0件とする。</p> <p>※目標が達成した状態 コロナ患者の外来及び入院に対応しながら、外来・入院・手術・二次救急に支障をきたすことなく、通常の医療を継続することで地域医療が守られている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「第5類」への引き下げに対応した感染対策の徹底</li> <li>・医療機器と感染防護具の十分な確保</li> <li>・国・県補助金の確保</li> <li>・ワクチン接種の実施</li> </ul>
◎部局目標3 2025年問題を踏まえた中長期的に地域で必要とされる医療提供体制の構築	関連の施策・基本事業No. 1-2 ④ 経営強化プラン(2023(令和5)年度～2027(令和9)年度)の策定	<p>〈現在の状態〉 2022(令和4)年3月に総務省から「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」が発出された。</p> <p>↓</p> <p>〈達成目標〉 ・2023(令和5)年度内に経営強化プランを策定する。</p> <p>※目標が達成した状態 中長期的に伊賀地域で必要とされる医療提供体制の構築に貢献している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県が策定する第7次三重県医療計画(2024(令和6)年度～)との整合</li> <li>・三重県地域医療構想との整合</li> <li>・「伊賀市地域医療戦略2025」など医療福祉関係計画との整合</li> <li>・市議会での説明やパブリックコメントによる市民の意見反映</li> </ul>

達成状況(自己評価)	理由
▶	
▶	
▶	

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段	達成状況 (自己評価)	理由
◎部局目標4	関連の施策・基本事業No 1-2 ④	<p>〈現在の状態〉 常勤医師は23名で、総合診療科、内科、放射線科、麻酔科の常勤または非常勤医師の確保がとくに必要。 ↓ 〈達成目標〉 2名以上の医師を確保する。</p> <p>※目標が達成した状態 医療提供体制が充実し、より質の高い医療が提供できている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三重大学、関西医科大学、滋賀医科大学の各医局への定期訪問</li> <li>・基幹型臨床研修病院として令和6年度からの初期臨床研修医確保に向けた募集活動</li> <li>・女性が働きやすい医療機関の認証取得</li> </ul>	▶	
◎部局目標5	関連の施策・基本事業No 1-2 ④	<p>〈現在の状態〉 救急当番時間帯における依頼に対する受入率は約99%となっている。 ↓ 〈達成目標〉 受入率99%を維持する。</p> <p>※目標が達成した状態 二次救急患者の治療開始までの時間短縮により、救命率向上や後遺障害軽減につながっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受け入れできなかった事例について、週1回の会議で妥当性の検証</li> <li>・当番日の非常勤医師の安定的な確保</li> </ul>	▶	
◎部局目標6	関連の施策・基本事業No 1-2 ④	<p>〈現在の状態〉 2022(令和4)年度の健康診断、ドック等の利用者数は8,497人で、コロナ前(令和元年度)の8,726人を下回っている。また、乳がん検診D・E判定者のうち当院受診率は81%となっている。 ↓ 〈達成目標〉 利用者数を8,800人、受診率を83%とする。</p> <p>※目標が達成した状態 がんや生活習慣病の早期発見により病気を未然に防ぐ市民が増えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オプション検査として肺がんドックの新設</li> <li>・市内の企業等への広報活動</li> </ul>	▶	
医師の確保による診療能力の向上	常勤・非常勤医師の確保				
伊賀地域の二次救急医療体制の充実	当番日における二次救急患者の確実な受け入れ				
疾病の早期発見・早期治療	検診内容の充実と健診後のフォロー				